

父子家庭の支えに

戸惑う子育て、仕事との両立…

おおいとしんぱぱ・しんママの会



シングルファーザーが前向きに子育てできるように取り組む田崎圭一さんと、次男の太陽君。子どもの成長は何よりうれしい。

2010年の国勢調査によると、県内の父子家庭は891世帯。ひとり親家庭の就労支援や法律相談などに取り組む県母子・父子福祉センターに寄せられる年間約130件の相談のうち、父子家庭によるものはわずか3件ほど。相談員の柳井勝博さんは「孤立している父子家庭は多く、イベントなども参加は母親ばかりなのが現状。広報も含め、どう支援に結び付けるかは課題」としている。

解決策、一緒に探ろう

離婚や死別などさまざまな理由から、独りで子育てしている父親たちの輪をつくらうと、大分市などで活動する「おおいとしんぱぱ・しんママの会」。代表の田崎圭一さん(46)＝別府市＝も、「しんぱぱ(＝シングルファーザー)として2人の息子を育てている。弱音を吐けず悩みを抱え込むシングルファーザーは少なくない。子どものためにも、父親たちが前向きに暮らせるよう、一緒に解決策を探っている。

田崎さんの妻扶美子さん(39)は、約10カ月の闘病かなわす2008年に亡くなった。当時長男太陽君は5歳、次男太陽君は1歳。残業が当たり前の営業職で、家事も子育てもほとんど妻任せだった生活は一変した。会社の理解はあったも

の、学童保育のお迎え時間に間に合うよう仕事を調整したり、子どもが熱を出して会議の途中で抜けたりと、思うように働けないジレンマは大きかった。「必死すぎてどう毎日をごんじしたか覚えていない」と苦笑いする。困ることはたくさんあ

① 田崎さんはどんな問題意識から会を立ち上げたのでしょうか。記事から読み取ってみましょう。

一人での子育てに困っても、子育てサークルなどは女性ばかりで参加しにくかった。

② 田崎さんにとっての会を作った効果と、それでもふと頭をもたげてくる思いを、記事からまとめましょう。

肩の力を抜いて子育てできるようになったものの「母親がいたら」と考えてしまうこともある。

③ 子育てに困っている人に、周りができることは何があるのでしょうか。考えてみましょう。

個人、地域、行政など、さまざまな立場にあてはめて、考えを深めていきましょう。

(2017年1月26日付朝刊文化面)